



■建物等に関する基準(1)

●人にやさしいまちづくりを進めましょう

・お店作りに当たっては、バリアフリー やユニバーサルデザインを積極的に取り入れましょう。

■バリアフリー等を取り入れた建物の例



■出入り口周辺や建物内部等は段差を設けないようにしましょう。段差がある場合は、スロープや手すりの設置をしましょう。(写真左)

■車椅子を利用する方でも訪れることができるよう、出入り口の近くに車椅子専用駐車場を設けましょう。(写真右)



■玄関のドアや廊下等は車椅子を利用する方でも通りやすい幅にしましょう。また、床は点字ブロックの設置やすべりにくい材質にしましょう。(写真左)

■さまざまな体格のお客様でも手にとりやすいように、商品棚を低めに設置するなど陳列方法を工夫しましょう。(写真右)



■わかりやすい案内表示として、絵記号(ピクトグラム)の使用があります。(右イラストはJIS(日本工業規格)による絵記号の一部)

表示による案内を使用する場合は、色覚に障害がある方のために色の組み合わせに気をつけましょう



■トイレは車椅子を利用する方や足が弱っている方でも使用できるように十分な広さを持たせ、手すり等を設けましょう。また、オストメイト用洗浄台やオムツ交換台を設置した多目的トイレは、より様々な人への対応が可能になります。(写真は多目的トイレの例)

※印の写真は、国土交通省資料「建築物におけるバリアフリー新法」資料より引用。

※※印の写真は、三重県松阪市「バリアフリーまちづくり賞」資料より引用。

●小名浜の市街地と調和の取れた、海が感じられるようなまちづくりを進めましょう

・ベースカラー(もっとも広い部分を占める色)は落ち着いた色調としましょう。

・周りの建物と調和した色合いにしましょう。

■調和した色使いの方法



○類似色調和

よく似た色彩を使った配色。建物の色を色相・明度・彩度が類似する色彩(類似色)でまとめています。



○色相調和

色相をそろえ、色相に変化をつけた配色。建物の色を同一または類似する色相でそろえ、明度や彩度に変化を持たせています。



○トーン調和

トーンをそろえ、色相に変化をつけた配色。建物の色を同一又は類似するトーンでそろえ、色相に変化をもたせています。



△調和しない例:高彩度による不調和

高彩度の色彩は周辺の景観と調和しません。これらの色彩の使用は、町並みや自然環境では特に控える必要があります。



△調和しない例:色彩の組み合わせ不調和

できる限り、いろいろな色彩の使用を避け、またアクセント色として使用する場合、周辺景観や建築物とのバランス、色数等に配慮しましょう。

・ナショナルチェーンやフランチャイズなど、CI(コーポレート・アイデンティティ)が決まっている店舗についても、調和の取れた街並み形成に積極的に協力しましょう。

■景観に配慮した屋外広告物の配色例

